

第9回 群馬県少子化対策推進県民会議 概要

1. 日 時 平成27年2月9日(月) 14:00～15:30

2. 場 所 群馬県庁 第2特別会議室

3. 出席者 県民会議委員 12名

4. 会議内容

(1) 次世代育成支援行動計画の策定状況について

(2) 少子化対策推進に関する意見交換

5. 主な発言内容

(1) 次世代育成支援行動計画の策定状況について

- ・地方版総合戦略と整合性を図り、平成27年度中策定とする方が良いだろう。
- ・1年間延びた場合、子ども・子育て支援事業支援計画との整合性を図って欲しい。
- ・県民から見てわかりやすいように、少子化対策は一つにまとめて欲しい。
- ・群馬の未来創生本部と十分な連携を図っていただきたい。

(2) 少子化対策推進に関する意見交換

- ・少子化問題は、全庁横断的に取り組んでもらいたい。若者が進学や就職で県外に流出しないように、魅力のある雇用の場を増やさないとならない。
- ・経済的な基盤が整わないと、子育てはできない。群馬の経済力を上げて、若者の県外流出を防いで欲しい。
- ・雇用の安定と家族形成は、関連性が深い。県として、非正規雇用をなくす運動をやったらどうか。
- ・結婚支援は、独身者の結婚に対する意識を盛り上げる必要がある。
- ・進学や就職で群馬を離れた若者に、群馬に戻ってきて欲しい。三世同居が進むと良いのではないか。
- ・男性の育児参加が必要だ。男性が日常的に子育てに携わることが、長い目で見て少子化対策になる。
- ・保育園の園長をしているが、当園で見る限り、父親の育児参加が高い家庭ほど、第2子、第3子を持っている。
- ・女性の働き方は、男性の役割が重要だ。男女で役割分担をしすぎないようにした方が良い。男女の働き方を、行政として分析したらどうか。
- ・少子化対策について、全国にアピールできる力強いキャッチフレーズが欲しい。
- ・子どもが小さいうちの子育て支援は、ずいぶん充実してきた。本当にお金がかかるのは、もう少し大きくなってからだ。
- ・安心できる環境を整え、子孫を残すという基盤づくりに真剣に取り組まないとならない。
- ・若い人の声を反映させ、どうすれば自分たちが子どもを持つ気になるのか、意見を取り入れた施策をつくって欲しい。